

令和7年度 校内研究まとめ

I 研究の概要

1 研究主題

「すべての生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの工夫」
～自他を尊重し、共に学び合う活動を通して～

2 主題設定の理由

科学技術が発展し、グローバル化がさらに進む現代社会の中で、私たちを取り巻く社会環境は急速に変化している。変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちには、確かな学力、豊かな心、健やかな体といった「生きる力」を育むことが求められている。そのため、生徒が自ら学び、考え、行動すること、他者と協働して課題を解決していくこと、様々な情報を見極め、その情報をもとに、再構成するなどして新たな価値につなげることなどが重要と考えられる。

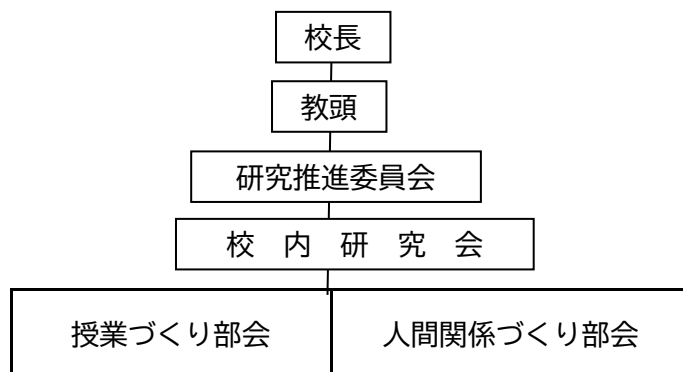
一昨年度より「より良い人間関係づくりの構築」と「学力の向上」を図るために、他者との豊かな関わりの中で学び合い、高め合う学習活動の在り方について研究に取り組んでいる。「学び合い」を取り入れた授業実践を始めたり、『学び合い』の考え方についての研修を行ったりして、理解を進めた。「学び合い」を取り入れた授業展開について、全職員で考えることができたことや、生徒たちが意欲的に授業に取り組む姿が見られたことなど、「学び合い」の取組の効果を感じることができた。

昨年度は、『学び合い』の考え方について理解を深め、「学び合い」の在り方について各部会で考えを深めた。研究授業を行い、「学び合い」の授業を参観することで「学び合い」の有効性等を全職員で確認することができた。一方で「学び合い」を取り入れた各教科の特性を踏まえた授業の実践については、教科間での情報共有などを通して検討を行い、実践につなげていく必要がある。また、生徒が主体的に学び合うための土台となる人間関係作りについては、各学年・学級の実態に即したエンカウンターの実践を行う必要があると考えられる。

今年度も、「より良い人間関係づくりの構築」と「学力の向上」を図るため、引き続き『学び合い』の考え方を取り入れた授業の研究に取り組む。『学び合い』の考え方を踏まえ、教科の特性や単元に応じた「学び合い」を取り入れた授業を継続していき、基礎・基本的な知識の定着を図りたい。また、各学年・学級の実態に応じたエンカウンターを通して、主体的に学び合う集団の土台となる人間関係作りを行いたい。「学び合い」を効果的に取り入れた授業づくりの実践を進めることで、すべての生徒が主体的に学ぶ姿の実現を目指し、この主題を設定した。

3 校内研修の組織図

研究組織は、各教科主任を部会長とする「授業づくり部会」、各学年推進委員を部会長とする「人間関係づくり部会」の2部会構成とする。研究主題をもとに授業の検討、実践を行う。



4 めざす生徒の姿

- (1)各教科の特性に応じた見方・考え方を働かせながら、主体的に学ぶ生徒
- (2)「学び合い」を通して、自分の考えを広げ深めていく生徒
- (3)自分の考えを伝えたり、相手の考えに共感したりすることができる生徒
- (4)互いを認め合い、進んで人と関わっていきこうとする生徒

5 研究の内容と方法

- (1)教科の特性を踏まえつつ、『学び合い』の考え方を取り入れた授業を検討、実践する。
- (2)授業参観や教科部会を通して、授業検討、改善を図る。
- (3)各調査の結果や授業での成果物、アンケートを通して、生徒の変容を見取る。

○授業づくりについて

(1)集団全員が目標を達成することをめざす課題づくりと見通しをもたせる授業

- ①学習課題と学習内容を示し、単元を通して身につける力と見通しをもたせる工夫をする。
- ②対話的な活動の時間を確保し、生徒同士が交流し、考えを発展させるように促す。
- ③最初の語りと最後のリフレクションで『学び合い』の考え方を生徒に浸透させる。
- ④学習内容、課題を精査し、単元の目標に則した課題設定を工夫する。

(2)生徒が方法を選択できる環境を保証する授業

- ①単元毎の「めあて」を達成するために、どのように学習を展開するか、誰と交流するか交流しないのか、何を使うかについて考え、決定していく裁量を可能な限り生徒に委ねる。
- ②「学び合い」を促す言葉かけと集団、個人の変化を観察する。
→教師は、教科書、資料集や他の生徒と繋ぎ、ファシリテーターに徹する。
- ③学習課題に対するリフレクションと教師の語りを行い、推奨したいことや次時に期待することを伝える。

6 各部会の主な活動

本研究では、生徒が「人と関わる力」を高め、「主体的に学びに向かう姿勢」を身につけることをねらいとして、『学び合い』の考え方を取り入れた授業を各教科の特性に応じて検討、実践する。その研究の柱として以下の2部会がそれぞれの役割を担う。

○授業づくり部（各教科主任）

- ①「学び合い」を取り入れた指導方法の工夫改善
 - ・教科の特性を踏まえつつ、『学び合い』の考え方を取り入れた授業の検討・実践する。
 - ・効果的なICTの利活用を検討し、授業に取り入れる。
- ②各教科での授業実践
 - ・「課題設定」「見取り」「振り返り」を意識した授業を実践する。
 - ・授業における教師の手立てについて協議する。
 - ・「学び合い」の各教科の特性に応じた評価について協議する。
- ③授業の相互参観や「学び合い」の実践記録の集約

○人間関係づくり部（各学年推進委員）

①体験的な活動を中心とした学級活動等の計画立案と実践

- ・ 出番・役割・承認のサイクルをつくり、自己肯定感や自己有用感を高める機会の提案。
- ・ よりよい人間関係作りの構築のために、学年の状況に応じたエンカウンターを取り入れた学級活動の提案。

②生活上の諸問題の解決や望ましい人間関係の育成にかかる授業づくり

- ・ 「Q-U」アンケートの分析をもとに、学級や学年での提案・実践を行う。
- ・ 特別支援生徒と困り感をもつ生徒に関わる取組

③授業の成果及び生徒の変容を可視化するための手だての構築

→必要に応じて電子黒板やネームプレートの準備、利用

④生徒の変容を見るためのアンケート等の実施と分析

7 年間計画

実施日	実施内容	協議内容
4月3日	第1回校内研	・昨年度の研究成果と課題、研究主題の確認 ・今年度の研究と研究内容の確認
5月21日	第2回校内研	・教科部会
6月18日	第3回校内研	・授業研究会Ⅰ
7月9日	第4回校内研	・人間関係づくり部会
8月29日	第5回校内研	・講話 Q-U分析,活用について
9月24日	第6回校内研	・講話 ICT利活用について
10月8日	第7回校内研	・教科部会
11月26日	第8回校内研	・授業研究会Ⅱ、人間関係づくり部会
12月17日	第9回校内研	・授業研究会の報告・各部会のまとめ、次年度の話合い
1月14日	第10回校内研	・次年度についての提案
2月26日	第11回校内研	・次年度の確認
3月25日	研究推進委員	・今年度のまとめ、次年度計画

8. 研究の実際

「すべての生徒が主体的に学び合う授業づくりの工夫」を研究主題とし、「よりよい人間関係作り」と「学力向上」の二つの視点から研究を進めた。「すべての生徒が」「主体的に」学ぶための手法として、「学び合い」活動を取り入れた授業の実践に取り組んだ。

(1) 教科の特性を踏まえながら、「学び合い」活動を取り入れた授業を実践する。

「学び合い」を取り入れた授業実践を行うために、まず、全職員の共通理解を目的とした『学び合い』ガイダンスを行った。『学び合い』の考え方の基本となる「学校観」「子ども観」「教師観」、『学び合い』を実践することで期待される効果、授業の実際について理解した。次に、教科部会で「学び合い」活動を取り入れた授業や単元、「学び合い」の方法を検討し、実践することとした。

(2) 互いに授業を参観する。

2本の研究授業を実施した。該当クラス以外を自習対応とし、交代で監督をすることで、全職員で授業参観を行った。授業検討会では、グループ分けを検討することで活発な意見交流を促すことができた。

(3) 人間関係づくりのためのエンカウターの提案と実践

今年度は、「人間関係づくり」部会で、全員が実践できる「エンカウター」を提案した。各学年でWEB QUを活用したエンカウターを実施することができた。

II 成果と課題

1 職員アンケート (別紙1) (別紙2) 参照

2 令和7年度校内研究のまとめ

今年度も研究主題を「全ての生徒が主体的に学びに向かう授業づくりの工夫」として昨年度に引き続き取り組んできた。『学び合い』の考え方を基本として「学び合い」活動を各教科の特性に合わせた授業改善を図ることができた。

(1) 研究の成果

- ・年度のはじめに、『学び合い』ガイダンスを行うことで、全職員が共通理解して、授業実践に臨むことができた。
- ・指導案の基本の型を検討し、全職員へ提示することができた。(資料1) (資料2) 参照
- ・教科部会で「学び合い」活動を取り入れた授業や単元、「学び合い」の方法を検討し、実践することができた。
- ・授業研究会で、「学び合い」を取り入れた授業について参観し、授業展開や子どもの取組などについて全職員で考えることで、授業実践に活かすことができた。
- ・ICT利活用に関する研修を行い、「学び合い」活動を取り入れた授業に取り入れる方法について検討をすることができた。
- ・WEB QUの研修を行い、各学級の状況を客観的に捉えることができた。また、結果をもとに各学年で話し合いを行い、手立てを考え、実践することができた。
- ・各学年、学級の状況に応じたエンカウターを実施することができた。

(2) 今後の展望

諸調査の結果から、家庭学習時間が少ないなど自ら学ぼうとする力に課題がみられる。そのため、自ら学びたいと思える課題の設定について検討をする必要があると考えられる。生徒のwell being実現を目的として、生徒が主体的に学びに向かう課題の在り方について研究を進める必要がある。

- ・学びへの「当事者意識」をもてるような単元を貫く課題、単元計画の検討・実践。
- ・対話的な活動の時間を確保し、生徒同士が交流し、考えを発展させることができる時間の確保
- ・生徒主体の学年・学級活動の検討・実施
- ・主体的に学び合う集団の基盤となる人間関係づくりのための実践
- ・アンケートなどを利用して、生徒の実態に合わせたエンカウターの実施